

自死について

平成18年に「自殺対策基本法」が制定され、自死は「個人の問題」から「社会の問題」として広く認識されるようになり、国を挙げて自殺対策が進められてきました。また、「自殺」という言葉は、遺族の方などの心情に配慮し、法律や統計用語などを除き、「自死」とする言い換えが進んでいます。

自死は、その多くが過労、生活困窮、育児・介護疲れ、いじめなどさまざまな社会的要因が関係して心理的に追い込まれた末の死であると言われています。

例えば、何か困ったことがあっても「地域の人を知らないから頼れない」「周りに迷惑を掛けられない」というプレッシャーを感じたり、社会に浸透している「自己責任論」「男らしく女らしく」といった価値観によって、「自分には価値が無い」「こうなったのも自分の責任」と感じ、自分に自信が持てなくなり、生

「ゆるやかな自死」とは

日本の自死者数は、平成22年度以降は減少傾向にある一方で、自死に含まれていないが自死と考えられるようなケースとして、セルフネグレクトや依存症による孤独死、事故死が挙げられています。

食事を摂らない、病院に行かない、お風呂に入らないなど、自身の心身の健康を自ら損なう行為を「セルフネグレクト」と言います。また、アルコールや薬物、ギャンブルなどへの依存症など、生活に必要な金銭を浪費してしまう行動も、セルフネグレクトと共通する点があります。自分を大切にできないこれらの行為は「ゆるやかな自死」とも言われています。

自死遺族を取り巻く現状

自死は、個人的な問題でも、家族単位の問題でもありません。しかし、現状では自

誰かが喜びやすい社会へ

一人一人がかけがえのないたった一人の人間です。何か困ったことやつらいことがあるときは、安心して「助けて」と言える社会が必要です。私たちが取り巻く社会の環境や価値観、考え方を変えていく

コスモスの会

(世話人) 岡子
☎090-3172-2111
(事務局) 尾崎
☎0857-221-0606

◆今回の記事は、とっとり自死遺族自助グループ「コスモスの会」にお話を聴き、参考とさせていただきました。コスモスの会では、大切な人を自死によって失った方が集まり、語り合うことで気持ちを分かち合う「分かち合いの会」を開いています。

「職場体験」で感じたこと

国府中学校2年の寺谷陽菜さんと村岡更紗さんが6月18日から21日までの4日間、職場体験学習のため鳥取市役所広報室に来てくれました。国府町内で職場体験をしている同級生取材し、「とっとり市報」のこの1ページを作成しました。取材のためのアポ取り、写真撮影、インタビュー、原稿作成、記事のレイアウトなど、慣れない環境の中でお願いした仕事をきちんとこなして、責任を持って紙面を作り上げてくれました。

☎ 本庁舎広報室 ☎ 0857-20-3159 ☎ 0857-20-3056

因幡万葉歴史館

地域の歴史を伝える

因幡万葉歴史館は、お客さまに国府の歴史を伝えていく施設です。取材に行くとき、そこはとも明るく、笑顔のあふれる職場でした。

職場体験中の中学生2人に職場体験で学びたいことを聞くと、「仕事の大変さ、大切さを知りたい」と、答えてくれました。

次に、館長の金指さんに職場体験中の中学生に学んでほしいことを尋ねると、「国府には、たくさん歴史があることを知ってほしい。また、学んだことを学校生活に生かしてほしい」と話しておられました。

体験中の2人は、初日だから緊張している様子でしたが、お客さまへの対応の練習に懸命に取り組んでいました。



とうふ工房雨滝

細かい作業が大切

とうふ工房雨滝は、豆腐を使った料理を扱うお店です。取材に行くとき、職場体験中の2人が元気なあいさつで迎えてくれました。

体験中の2人に体験した感想を聞くと、「見えない所の作業が大変だった」、「一つの作業が細かいけど大切だと思った」と話してくれました。

次に、仕事のやりがいについて社長の山野さんに尋ねると、「おいしいものをお客さんに食べてもらうこと」と話しておられました。また、体験中の2人については、「真面目でとても優秀」と褒めておられました。

笑顔で接客している2人、お店の中の雰囲気もより明るくなってきたようでした。



深澤市長にインタビュー

鳥取市民を第一に

職場体験2日目に深澤市長に面会し、インタビューを行いました。

市長は、市民が鳥取市に住んで良かったと思えるようなまちづくりをしています。

まず、鳥取市長になると思った理由を尋ねると、「市役所の庁舎の移設や家庭から出るごみなどのいろんな課題を解決したいと思ったから」と答えられました。

次に、市長が思う他の市に負けない鳥取市の魅力について尋ねると、「自然豊かで素晴らしい歴史や文化がたくさんあること」と答えられました。

そんな魅力いっぱい鳥取市をより良くするために、これからしていきたいことを尋ねると、「みんなが安心して暮らしていくために何をしたいか考えて行動したい」、また、「鳥取市の素晴らしいものを最大限に生かしたい」とのことでした。

編集後記

一つの記事を作るために、インタビューをする人や写真を撮る人など、たくさんの方が見えないところで努力していることが分かりました。(寺谷陽菜)

今回の職場体験を通して、記事を作る大変さが分かりました。読者が読みやすい文章を考えるのは難しかったですが、とても良い経験になりました。(村岡更紗)

市長は、私たちのたくさん質問の一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

普段あまり会うことのない市長に直接お会いして、市長がより良い鳥取市にするために普段から市民のことを第一に考えていることが分かりました。

